

企業ガバナンス部会第20クール月例セミナープログラム/サマリー(2024/09~2025/08) (ver.15)

2025.06.15

統一テーマ：実効性あるコーポレートガバナンスに貢献できる社外取締役・監査役になるために

企業ガバナンス部会

No.	開催日	テーマ	講演者	視点	場所	備考
1	2024.09.30(月) 14:00~16:00	上場企業の取締役・監査役に求められる法的義務と責任	角田大憲法律事務所 弁護士 角田大憲	上場企業の取締役・監査役を目指すDF会員等が知っておくべき役員の法的義務と責任、特に経営判断原則と内部統制システム整備について、具体的な裁判例も踏まえて解説する。	hybrid	テーマ決定、日程確定
2	10.21(月) 14:00~16:00	知財・無形資産ガバナンスと企業価値向上	一橋大学 経営管理研究科兼商学部 教授 加賀谷哲之士	日本ではコーポレートガバナンス改革の一環として、知財・無形資産の監督・開示の強化が求められている。過去10年間におけるガバナンス改革の成果について整理したうえで、知財・無形資産の監督・開示の強化をいかに実践していくべきかについて討議する。	hybrid	テーマ決定、日程確定
3	11.29(金) 14:00~16:00	長期投資家から見たアクティビズム	みさき投資株式会社 マネージングディレクター 中尾彰宏氏	①「PBR1倍割れの解消」に代表されるような東証からの要請と背景にある問題の構造、②長期投資家から見たアクティビズムの進化と実態、③みさき投資の新たな「アクティビズム」、経営者との対話例	hybrid	テーマ確定、日程確定
4	12.23(月) 13:30~15:30	株主総会はどのように変わるのか？	三井住友信託銀行 ガバナンスコンサルティング部 IR担当部長 加藤佳史氏	これまでの株主総会の歴史を振り返り、直近の2024年6月株主総会の概況を説明、急増している株主提案の動向と厳格化が進む機関投資家の議決権行使判断を解説して、中期的に変化が予想される株主総会の在り方に関して議論する	hybrid	テーマ確定、日程確定
5	2025.01.23(木) 14:00~16:00	コーポレートガバナンス強化への期待と実践	三菱UFJ信託銀行 コンサルティング部 シニアコンサルタント 公認会計士 神野敬司氏	企業のコーポレートガバナンスを強化・維持する上で、最も重要な位置づけにあるものは取締役会である。即ち、取締役会が適切に機能しているかどうかはコーポレートガバナンスが機能しているかどうかの中核だが、社内からはその有効性や適否がなかなか見えずらいのが現状。そのため、外部の第三者機関に実効性の評価を依頼することとなるが、その現場に横たわる問題やあるべき姿について、実効性評価の第一線で活躍されている講師を招いてお聴きしたい。	hybrid	テーマ決定、日程確定
6	02.19(水) 14:00~16:00	最近の社外取締役・監査役の実務課題	三優監査法人 名誉会長 杉田純氏	10年以上の連続講演。恒例になった最高人気講座で怒涛の解説がまた今年も聴けます	hybrid	テーマ決定、日程決定
7	03.18(火) 14:00~16:00	経営幹部がおさえるべきM&Aの最新動向	日本M&Aセンター 上席執行役員 雨森良治氏	企業の成長戦略、価値向上策の一つとしてM&Aが重要なツールになっている。経済産業省は昨年8月に「企業買収における行動指針」を策定し、敵対的買収をも認めるようになった。また、中堅・中小企業においては、事業承継は喫緊の課題であり、円滑な事業承継のために更に一回り大きくなるためにもM&Aは真剣に検討すべき時期に来ている。	hybrid	テーマ確定、日程確定
8	04.25(金) 14:00~16:00	日本企業のガバナンス体制と監査役等の関係	日本公認不正検査士協会理事長、元日本監査役協会会長、元三井物産代取副社長兼CFO、元常勤監査役、JAL社外監査役、SCおよびCGのフォローアップ会議メンバー 岡田謙治氏	元日本監査役協会会長から見た我が国のコーポレートガバナンス改革の現状と課題、監査役に期待される役割	hybrid	テーマ決定、日程確定
9	05.23(金) 14:00~16:00	パネルディスカッション 「IPOを目指す企業の社外役員に期待されている役割と留意点を考える」	モデレーター：世話役会 パネリスト：中小企業経営者、社外役員経験者	DF支援先中小企業経営者およびDF会員で社外取締役・監査役によるパネル	hybrid	テーマ決定、日程確定、DF会員限定
10	06.25(水) 14:00~16:00	最近の資本効率経営の現状～資本効率・株価、資本市場の変化	株式会社UACJ 取締役 エグゼクティブアドバイザー 川島輝夫氏 (DF会員)	2014年伊藤レポートが発行され、企業経営に資本効率を求められることが明確化された。企業側では、資本効率、資本コスト・株主資本コストや資本市場と対話がより重要な事項となっている。他方、資本市場運営者である東京証券取引所からも資本効率・株価に関して企業側に求める事項が増加。経済産業省からも資本効率やM&Aに関する指針が公表された。企業運営での資本関連を取り巻く環境は大きく変化し、多くを対応しないといけなくなっている。現在、企業側に求められる事項の整理と、企業側の対応を報告したい。	hybrid	テーマ決定、日程確定
11	07.18(金) 10:30~12:30 Aグループ 14:00~16:00 Bグループ	研究成果発表会	Aグループ 企業不祥事～調査報告書から学ぶ社外役員のやるべきこと Bグループ 実践講座：その時あなたならどうする？～中小企業やスタートアップ企業の社外取締役や監査役のあるべき姿を考える～	企業不祥事に遭遇する社外役員は少ないが、もし起こったら？と不安な方も多いだろ。基本的に不祥事防止は執行部門の責任である。しかし、実際に不祥事が起こると、「ガバナンスに問題があった」と言われることも少なくない。その上で、自分事として社外役員が、例えば株主総会でその時の対応を聞かれたとしても説明できる、または責任を果たしたと判断されるには、どのようにふるまうべきだったのか、何をすべきだったのかを議論する。このテーマの研究で期待できる効果としては、社外役員として必要な知見を得て、就任会社の取締役会等での発言材料等を身に付けることが挙げられる。 ガバナンス部会では、2年続けて同様なテーマで研究を行いました。参加者からはいろいろな気付きがあり、大変有効だったと評価頂いています。中小企業はオーナー企業を中心に、業態や経営体制など千差万別で、それに合わせてDF会員が参画すると、結構戸惑うことが多いのです。或いは、経営者とトランプルとなり、途中下車することもあります。そこで本研究会で、中小企業の社外役員経験者や実際の中小企業経営者にインタビューすることを通して、ご自身がその会社の社外取締役や監査役になった積りで、あるべき姿を一緒に考えてみませんか？再就職先として中小企業の社外役員を希望されている方は、是非参加することをお勧めします。	hybrid	日程確定 会場：日比谷図書文化館